

～臨床情報・検体の研究利用に関するお知らせ～

『研究課題名 頚動脈ステント留置中に発生する大動脈弓由来脳塞栓の検討』

研究機関名 東邦大学医療センター大橋病院

研究責任者 脳神経外科 職位・氏名 講師・林 盛人

【研究の目的】

東邦大学医療センター大橋病院脳神経外科では、頚動脈ステント留置術中に発生した遠位塞栓とMRIで検出される大動脈弓部プラークとの相関を解析する目的で本研究を計画しました。頚動脈ステント留置術とは、足の付け根や腕の血管からカテーテルと呼ばれる細い管を挿入し、首の血管（頚動脈）の細い部分まで誘導して、頚動脈の狭窄部分に“ステント”と呼ばれる金属性の網状の筒を留置することで血管の狭窄部位を拡張させる手術です。この手術の合併症として、カテーテルを誘導中もしくはステントを留置中に発生する遠位塞栓が知られています。遠位塞栓とは、血管の壁にできたプラークと呼ばれる血液の固まりがカテーテルの誘導中もしくはステント留置に際して一部損傷することで発生する血栓が遠位の脳血管に流れて、脳の血管を閉塞し、脳梗塞の原因となります。本研究では大動脈弓という場所のプラークが、頚動脈ステント留置術に伴う遠位塞栓による脳梗塞発生に影響しているかどうかを調べる研究です。この研究で得られる成果は、頚動脈ステント留置術の安全性向上に寄与します。

【研究対象および方法】

この研究は、東邦大学医療センター大橋病院倫理委員会の承認を得て実施するものです。

対象者：2019年4月1日～2022年7月31日までに東邦大学医療センター大橋病院脳神経外科で頚動脈ステント留置術が行われた頚動脈狭窄症患者様（約30例）。

方法：診療録(カルテ)から抽出した臨床データを解析し、大動脈弓部のプラーク評価、頚動脈ステント留置術後に発生した遠位塞栓による新規脳梗塞との相関を解析する。

この研究に必要な画像検査は通常の診療範囲で行われますので、患者さんに新たな負担をおかけすることはありません。

【研究に用いられる試料・情報】

情報：年齢、性別、既往歴、生活習慣歴

手術内容：使用したカテーテルやステントの種類、アプローチ(上腕動脈、大腿動脈など)
術前のMRIで評価される大動脈形状、大動脈弓部の不安定プラークの有無及び位置
手術翌日に行われるMRIで評価される頚動脈ステント留置術後に発生した遠位塞栓による新規脳梗塞の位置、場所。

【研究組織】

代表施設名：東邦大学医療センター大橋病院 研究代表医師：林盛人 役職：講師

【個人情報について】

研究に利用する情報は、患者さんのお名前、住所など、個人を特定できる個人情報は削除して管理します。また、今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できるような情報を利用することはありません。

本研究に関してご質問のある方、診療情報等を研究に利用することを承諾されない方は、下記までご連絡下さい。その場合でも、患者さんに不利益になることはありません。また、患者さんご本人はもちろん、ご家族等、代諾者の方からのお問い合わせもお受けいたします。

【連絡先および担当者】

東邦大学医療センター大橋病院 脳神経外科

職位・氏名：講師・林 盛人

電話：03-3468-1251 内線：7434